

# 舞鶴市議会 福祉健康委員会 活動報告

- 愛知県長久手市における取組の調査
- 愛知県東海市における取組の調査
- 東京都立川市における取組の調査

## 福祉健康委員会調査視察

実施日：令和6年5月15日～17日

## 視察の目的

本市では、令和7年度からの重層的支援体制整備事業の本格実施を目指し、令和5年度から、複数の相談支援機関を結んだ包括的な支援が行えるよう取り組んでいる。

重層的支援体制を実施していくにあたり、本市において課題となっている、住民同士のつながりの希薄化、地域の福祉人材や民生委員等の人材不足等の解決を目指し、誰一人取り残さない体制を実現するべく、先進的な取組を行っておられる自治体の調査・視察を実施した。

## 〔福祉健康委員会の令和6年の重点事項〕

- (1) 重層的支援体制構築の推進に係る調査・研究
- (2) 福祉人材等の確保に係る調査・研究

## 視察先及び日程

舞鶴市議会のホームページに視察報告書を掲載していますので、ご覧ください。



日	程	視察先	調査事項
令和6年5月15日(水)	13時30分～15時30分	愛知県長久手市	重層的支援体制整備事業について
令和6年5月16日(木)	9時30分～11時30分	愛知県東海市	
令和6年5月17日(金)	10時00分～12時00分	東京都立川市	

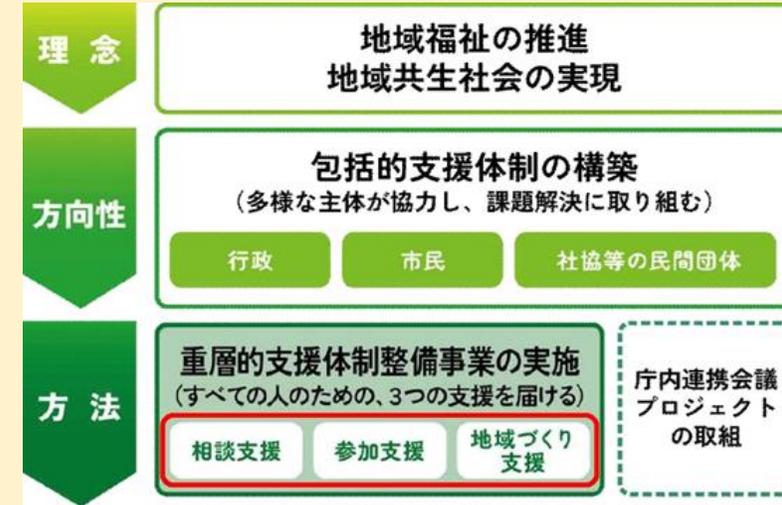
# 福祉健康委員会調査視察

実施日：令和6年5月15日～17日

## 【愛知県長久手市】調査事項：重層的支援体制整備事業について

### 《長久手市の取組の概要》

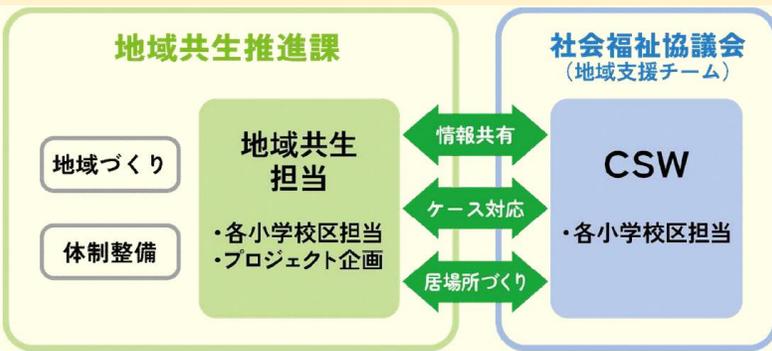
- ◇ 重層的支援体制整備事業を所管する「地域共生推進課」と、社会福祉協議会に配置されたCSWが取組の中心。
- ◇ 全職員を対象として複数回の研修を行っているほか、年に2～4回程度、各課の職員が集まっての庁内連絡会議等を実施されるなど、全庁を挙げて体制づくりに取り組んでおられた。
- ◇ 社会参加が必要な人のための居場所兼相談窓口「Nジョイ」を、社会福祉協議会に配置されたCSW5名が交代（常駐）で運営されていた。



長久手市の重層的支援体制整備事業の位置付け

### 《委員の所感》

- 地域共生推進課に配置されている「地域共生担当」とCSWが、それぞれの強みを生かし連携しながら活動を行っており、参考となる取組であった。
- 地域共生担当の積極的なアウトリーチによる地域づくりの取組や地域福祉の担い手の創出・拡充への取組、地縁組織や民間企業等との関係性を活かしたコーディネート等の活動は、今後の本市の体制構築の参考となる。
- 「Nジョイ」の設置・運営は社会福祉協議会が行われており、地域福祉を担う社会福祉協議会と連携して相談窓口を開かれていることは見習うべきことと思う。



地域共生担当とCSW

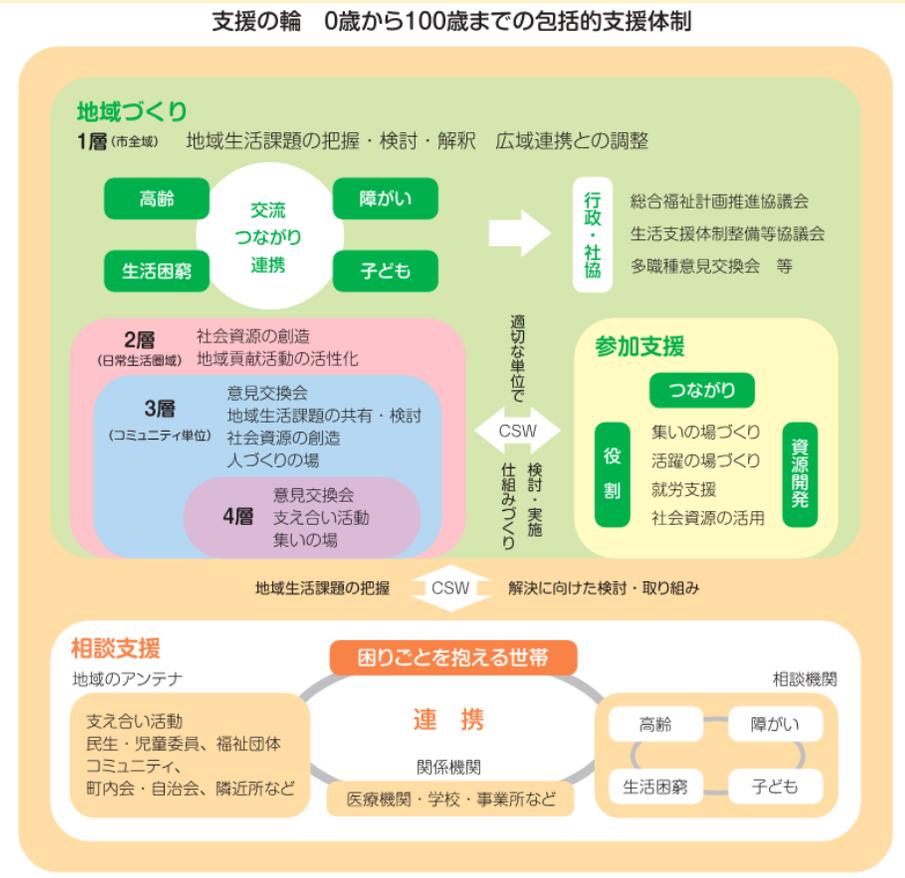
# 福祉健康委員会調査視察

実施日：令和6年5月15日～17日

## 【愛知県東海市】調査事項：重層的支援体制整備事業について

### 《東海市の取組の概要》

- ◇ これまでから取り組んでこられた「0歳から100歳までの地域包括ケア」を基に、地域住民の参加を必須として、重層的支援体制整備事業を実施されていた。
- ◇ 福祉に関する困りごとについて、分野を問わず相談を受け止め、必要に応じて適切な支援機関につなぐ人の目印として作成された「ふくしの相談マーク」があり、ワンストップで相談を受け止めること、相談を専門機関や担当課へつなげ、ともに解決していくことを目標とした、福祉の網目を広げるための取組が展開されていた。



### 《委員の所感》

- ワンストップ的役割を果たす部署が定められておらず、福祉関係職員や地域の民生委員がワンストップ的役割を果たす仕組みは、困りごとをつないでいく人材としての伴走支援になるものであり、ユニークな取組として参考になる。
- ふくしの相談マークのある所やバッジをつけている職員には福祉のことを何でも相談できるという取組については、市民の方にわかりやすいアプローチとして参考になるのではないか。



ふくしの相談マーク

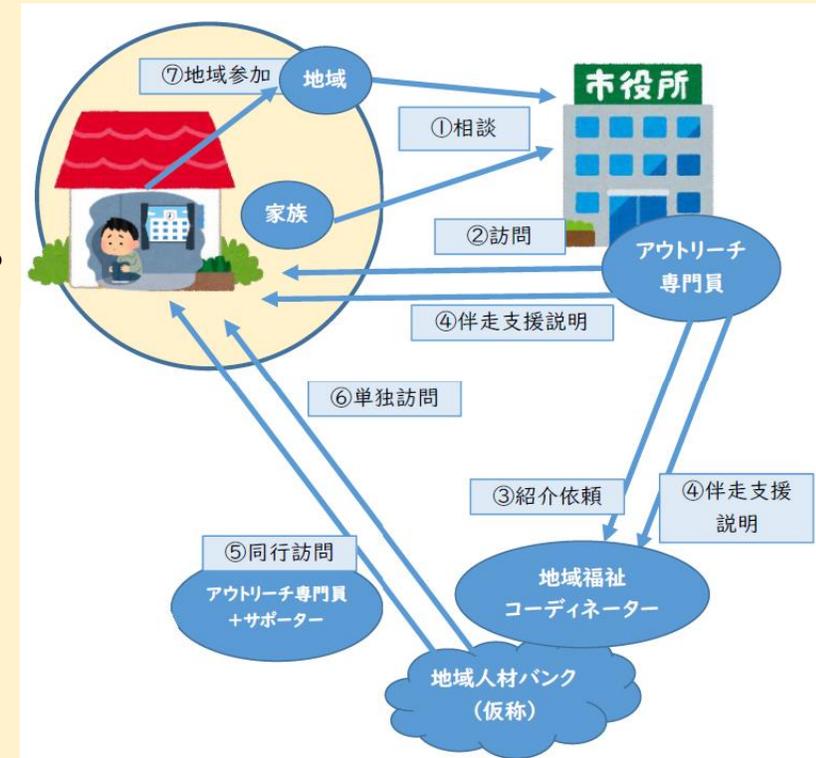
# 福祉健康委員会調査視察

実施日：令和6年5月15日～17日

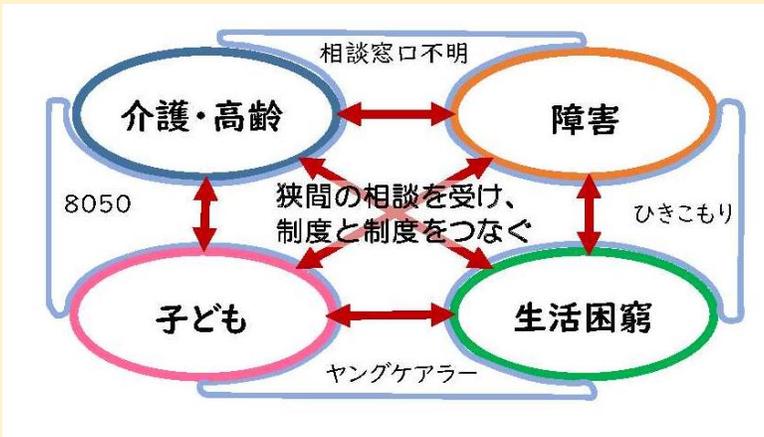
## 【東京都立川市】調査事項：重層的支援体制整備事業について

### 《立川市の取組の概要》

- ◇ 社会福祉協議会に配置された地域福祉コーディネーターと、社会福祉協議会及び市の担当課に配置された相談支援包括化推進員が事業の中心。
- ◇ 令和4年度より、地域福祉コーディネーターや相談支援包括化推進員とともに自宅を訪問し相談に入るなど、関係性をつくり、社会参加支援や同行を行う「アウトリーチ専門員」が配置されていた。
- ◇ 地域の空き部屋や企業の空きスペース等を活用し、住民主体の運営をベースとした相談やサロンを実施する「地域福祉アンテナショップ」が立ち上げられ、近隣住民の交流をつなぐ活動の場や住民の困りごとをつかむ場となっていた。



【参考図 アウトリーチ事業概要図】



重層的支援体制整備事業の実施イメージ図

### 《委員の所感》

- 専門職員をそれぞれの事業にしっかり配置され、有効的に職員間の連携等が行われていることが、この事業の推進の大きな力になっていることは、本市でも見習うべきことかと思う。
- 現場担当者が市と社会福祉協議会の連携により、生活支援を含む複雑な困りごとに対応できるようにしておられ、困難とされていた「まるごと支援」に有効と考える。